

COLUMN | AI活用 | 株式会社DnD

ツールは揃っている、 あとはつなぐだけ。 n8nでSlack・メール・AIを 一本のフローにする考え方

Slack・Gmail・スプレッドシート・ChatGPT——それぞれ使えているのに、ツール間の
転記作業が残っている。オープンソースのn8nで「つなぎのロス」を解消し、繰り返し作
業を自動化する考え方と3つの活用例を解説します。

2026.08.13 | dnd-inc.jp

なぜ「ツールは使えているのに手作業が残る」のか

多くの中小企業では、以下のような「つなぎの手作業」が業務に残っています。

- ・問い合わせフォームに回答があったら、担当者がSlackに転記して周知する
- ・Googleフォームの集計を週次でスプレッドシートにまとめ、メールで報告する
- ・メールで届いた注文内容を読んで、受注管理シートに手入力する

これらは、それぞれのツールを「単体で使っている」状態が原因です。ツールを「つなぐ」ことさえできれば、人が介在しなくても情報が自動で流れるようになります。

n8nとは何か？なぜ今、注目されているのか

n8nは2019年に登場したオープンソースのワークフロー自動化プラットフォームです。「ノード（Nodes）」と呼ばれる部品をビジュアルにつないで、ツール間の自動連携フローを構築します。

Zapier・Makeなどの同種サービスと最も異なる点は、**自社サーバーで動かせる（セルフホスト）**ことです。顧客情報や社内文書を外部クラウドに渡さずに処理できます。

2026年現在、AIエージェントとの連携ノードが標準搭載され、OpenAIやAnthropicのAPIを組み込んだ「考えながら動くフロー」も構築できるようになっています。

「つなぐだけ」の自動化から「考えながらつなぐ」自動化へ——n8nはその橋渡しを担うツールです。

代表的な3つの活用フロー

① 問い合わせメール → Slackへ自動通知＋担当割り振り

Gmail・Outlookで問い合わせメールを受信 → AIで内容を分類（製品質問／クレーム／見積依頼など） → 適切なSlackチャンネルへ自動通知。受信から数秒で完了します。

② フォーム回答 → 集計+AIサマ리를メール配信

アンケート・申込フォームの回答がGoogleスプレッドシートへ自動集計され、週次でAIが傾向をサマリ化、担当者に定期レポートをメール送信します。

③ 受注メール → 受注管理シートへ自動入力

受注メールをAIが解析し、商品名・数量・納期などを抽出してスプレッドシートへ転記。1件7分の入力作業が40秒程度に短縮された事例があります。

はじめ方の3ステップ

- ・ **ステップ1** — ローカルで起動して試す： Docker Desktopをインストールし、 n8nの公式イメージを起動。ブラウザでキャンバスを開き、 GmailノードとSlackノードをつないで最初のフローを体験する。
- ・ **ステップ2** — 本番フローを1本決める： 「問い合わせ転送」「週次レポート」など現在手作業の定型業務を1つ選び、そのフローだけを本番環境（VPS・社内サーバー）に移す。
- ・ **ステップ3** — AIノードを組み込む： フローが安定したらAI APIのノードを追加し、分類・要約・文章生成などの判断処理を加える。「単純転送」から「インテリジェント自動化」へ段階的に育てる。

n8nを選ぶ判断基準

- ・ **データを社内に留めたい**： セルフホストできるn8nが候補筆頭
- ・ **実行回数が多い・フローが増える見込み**： ZapierはTask数に応じた従量課金のためコストが急増しやすい。n8nのセルフホストはサーバー費用のみ
- ・ **すぐに使いたい・ノーコードで完結したい**： 小規模・試験的な用途ではZapierやMakeの方が手軽なことも
- ・ **AIとの複雑な連携が必要**： n8nのAIエージェントノードは充実した選択肢のひとつ

まとめ

「ツールは揃っているのに手作業が残る」という問題の多くは、ツール間の「つなぎ」が抜けているだけです。n8nはコスト・データ管理・AI連携の三拍子で中小企業にも導入しやすい選択肢です。まずはローカルで触れてみることから始めてみてください。

株式会社DnDへのご相談

n8nをはじめとした自動化ツールを活用した業務フロー改善を支援しています。「どこから手をつければいいかわからない」という段階からご相談いただけます。

ご相談・お見積りは無料です。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>